

試験報告書

過酢酸スプレ어의除菌効力試験

林六 株式会社

2019年1月29日

一般財団法人 千葉県薬剤師会検査センター



試験品受入日 2018 年 11 月 27 日

試験受託者 林六 株式会社
東京都千代田区神田須田町 2 丁目 6 番地

試験品の名称 ビネガーミスト

試験品番号、ロット番号及び受領量

試験品番号	名称	ロット番号	数量
I8-B-9027-01M	ビネガーミスト	180904	1 本

試験施設 一般財団法人 千葉県薬剤師会検査センター食品薬品部
千葉県千葉市緑区大野台 2 丁目 3 番 36

部門責任者 西川 弘之

区分責任者 古川 善雄

試験担当者 鈴木 由理子

1.試験目的

本試験は、真菌を死滅または除去し清浄度を微生物学的に評価することを目的とした。

2.被験物質と保存方法

被験物質は、林六株式会社から提供され試験開始まで室温で保管した。

3.試料液の調製

予備試験用、除菌効力試験用共に被験物質・原液を試料液とした。

4.使用菌株

表 1 試験菌株

試験菌名	試験菌番号
<i>Aspergillus brasiliensis</i> (<i>A. brasiliensis</i>)	NBRC 9455

7.使用培地

SCDLP ブイヨン培地 (栄研)

SD カンテン培地 (日本製薬)

チオ硫酸ナトリウム (和光純薬)

8.不活性化剤

チオ硫酸ナトリウム加 SCDLP ブイヨン

9.試験方法

1) 予備試験 (試料液存在下においても菌株を検出する能力があることを確認)

試料液 1mL に 0.5%チオ硫酸ナトリウム加 SCDLP ブイヨン培地 (不活性化剤) 9mL を加え混合した。これに約 10^4 cfu/mL 試験菌懸濁液を 0.1mL 添加し菌数を測定する。対照として、試料液の代わりに pH 7.2 リン酸緩衝液及び 0.5%チオ硫酸ナトリウム加 SCDLP ブイヨン培地の 10mL を用い、不活性化剤による有効性の確認を行った。

不活性化剤の有効性は、第十七改正日本薬局方 4.05-I-3.5 に準拠し、下記判定基準によって判定した。

判定基準：{A (不活性化剤処理後の菌数) / B (対照の菌数)} × 100 = 50~200%以内

2) 除菌効力試験

① 常温状態の試料液 10mL を試験管に分注し、約 10^7 cfu /mL の菌液を 0.1mL 加えた。室温で所定時間作用後 1mL を 0.5%チオ硫酸ナトリウム加 SCDLP ブイヨン培地 9mL に加え混釈法で菌数の測定を行なった。

② 試料液 10mL を試験管に分注し、40℃に加温した。加温試料液に約 10^7 cfu /mL の菌液を 0.1mL 加えた。室温で所定時間作用後 1mL を 0.5%チオ硫酸ナトリウム加 SCDLP ブイヨン培地 9mL に加え混釈法で菌数の測定を行った。

培養条件

試験菌名	使用培地	培養温度	培養時間
<i>A. brasiliensis</i>	SD カンテン培地	22.5±1℃	3~7 日間

コロニーの発育状態を確認し、培養時間を変更した。

10. 試験結果

予備試験

試験菌名	試料 A	対照 B (中和剤)	対照 B (pH7.2 リン酸緩衝液)	判定
<i>A. brasiliensis</i>	4.6×10 ¹	3.0×10 ¹	4.8×10 ¹	適合

除菌効力試験① (常温)

試験菌名	対照	直後	5 分	10 分	20 分
<i>A. brasiliensis</i>	2.7×10 ⁵	1.6×10 ⁵	<10	<10	<10

<10 : 検出せず

除菌効力試験② (40℃加温)

試験菌名	対照	直後	5 分	10 分	20 分
<i>A. brasiliensis</i>	2.4×10 ⁵	<10	<10	<10	<10

<10 : 検出せず